

CREATE  
LASTING  
IMPACT

# 春日井ロータリークラブ

2026-27 WEEKLY REPORT

クラブ方針

Rotary  
Club of KASUGAI



「伝統を礎(いしずえ)に、春日井から“持続可能なインパクト”を」

会 長：中川 健 事務局：春日井市鳥居松町 5-45  
副 会 長：加藤 久仁明 T E L：0568-81-8498  
副 会 長：大橋 省吾 F A X：0568-82-0265  
幹 事：風岡 明憲 E-mail：info@kasugai-rc.org  
会報委員長：森部 清孝 H P：https://www.kasugai-rc.org/  
例会場：ホテルプラザ勝川



2026年8月28日(金) 2676回(8月第3例会)

本日のプログラム

|              |         |    |       |
|--------------|---------|----|-------|
|              |         | 司会 | 会場委員会 |
| ・点鐘          | 会長      | 中川 | 健君    |
| ・ROTARY SONG | 「我らの生業」 |    |       |
| ・今月の歌        | 「サライ」   |    |       |
| ・ビジター・ゲスト紹介  | 会長      | 中川 | 健君    |
| ・会長挨拶        | 会長      | 中川 | 健君    |
| ・委員会報告       |         |    |       |
| ・卓話          |         | 岡本 | 寛之君   |
| ・クラブフォーラム    | 会員増強委員会 | 伊藤 | 正樹君   |
| ・幹事報告        | 幹事      | 風岡 | 明憲君   |
| ・点鐘          | 会長      | 中川 | 健君    |

今月の歌

「サライ」

動き始めた 汽車の窓辺を  
流れてゆく 景色だけを じっと見ている  
サクラ吹雪の サライの空は  
哀しい程 青く澄んで 胸が震えた

【洋食ランチ】

鶏ハムサラダ

冷製和牛しゃぶしゃぶ旨辛うどん

にら饅頭

デザート

コーヒー

|      | 9月4日(金)                                                              | 9月7日(月)                                                                           | 9月19日(土)                                                                         | 9月25日(金) |
|------|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 例会予定 | ホテルプラザ勝川<br>11:15～ 第3回理事役員会<br>12:30～ 例会<br>祝福<br>全員協議会<br>卓話 実原 秀泉君 | 例会変更<br>9月11日(金)→9月7日(月)<br>ガバナー公式訪問<br>名古屋マリオットアソシア<br>11:30～会長幹事懇談会<br>12:30～例会 | 例会変更<br>9月18日(金)→9月19日(土)<br>職業奉仕委員会フォーラム<br>名古屋瑞穂公園陸上競技場<br>17:00受付<br>18:00～例会 | 休会       |

会長挨拶

会長 中川 健君

卓話

東尾張分区 2026-27年度ガバナー補佐 岡田 雅隆君

皆さま、こんにちは。  
本日は例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日は、東尾張分区より、岡田ガバナー補佐をはじめ3名の皆さまにお越しいただいております。

ご多用の中、春日井ロータリークラブの例会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

クラブを代表いたしまして、心より歓迎申し上げます。

また、本日は私たちのクラブの活動や運営についてご覧いただき、そしてさまざまなご指導、ご助言をいただける貴重な機会であると受け止めております。  
どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度がスタートして、約二か月が経とうとしております。

私自身、会長としてこれまで例会やクラブ活動に参加する中で、改めて感じていますのは、ロータリークラブの原動力は、やはり「人」と「人とのつながり」であるということにあります。

今年度、春日井ロータリークラブでは、「会員を増やし、親睦を深め、笑顔を増やす。そして、その笑顔を地域への奉仕につなげていく」ということを大切にしていきたいと思いますと考えております。

会員増強につきましても、単に会員数を増やすことだけを目的とするのではなく、ロータリーの理念や活動に共感し、私たちと一緒に活動していただける仲間を増やしていくことが重要だと考えております。

そして、会員同士の親睦を深めることで信頼関係が生まれ、その信頼関係がクラブの活力となり、さらにその力を地域への奉仕につなげていく。

この良い循環を、今年度のクラブ運営の一つの柱としていきたいと思っております。

また、RI会長のテーマである「持続可能なインパクトを生み出そう」という考え方についても、私たちのクラブとしてしっかりと受け止め、今だけではなく、将来にわたって地域に必要とされるクラブであり続けるために、何ができるのかを皆さんとともに考えていきたいと思っております。

そのためにも、会長や役員だけがクラブを運営するのではなく、

会員一人ひとりがそれぞれの立場で参加し、意見を出し、力を発揮していただくことが大切だと思っております。

本日は、地区の方針やロータリーの活動について、さまざまなご指導、ご助言をいただけることと思います。

私たち春日井ロータリークラブにとりましても、今後のクラブ運営を考える上で、大変有意義な一日になるものと期待しております。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

皆さま、本日はお時間をいただきありがとうございます。

2026-27年度、RI第2760地区、東尾張分区ガバナー補佐訪問としてお話しします、犬山ロータリークラブの岡田雅隆です。

本日は、RI会長メッセージと第2760地区方針を、各クラブの一年の行動につながる形で共有いたします。  
13枚のスライドがありますが、資料を順に読む時間ではなく、「私たちは、今年何を残すのか」という問いを、皆さまと一緒に確認する時間にしたいと思います。  
どうぞよろしくお願いいたします。

RI会長メッセージ

今年度のテーマは、オンラインカ・H・ババロラRI会長による「持続可能なインパクトを生み出そう」、CREATE LASTING IMPACTです。

最新のメッセージでは、私たちロータリー会員は、文化、言語、地域社会を超えて手を取りあい、変化をもたらすだけでなく、その変化が持続する責任を分かち合う、と語られています。

ここで大切なのは、単に良い事業を行うことではありません。地域社会と連携し、人びとのスキルとリーダーシップを高め、その進展を確かめること。そして、プロジェクトが終わった後にも、地域社会と自分自身の中に良い変化が残ることです。  
私たちは熱心であるほど、行事が無事に終わった時点で安心しがちです。しかし本当に問われるのは、そのあとです。誰の行動が変わったのか。どんな関係が残ったのか。次年度にも引き継げる仕組みになったのか。

つまりこのテーマは、事業数を増やす合図ではなく、成果の残り方を問う合図です。

2026-27年度RI会長方針

この言葉を少し分けて考えます。  
「手を取りあおう」、UNITEは手段です。  
一人の善意だけでは届かない場所に、クラブ、地域、世界がつながることで近づいていく。

「よいこと」、GOODは目標です。  
活動を増やすことではなく、地域にとって本当に価値ある成果へ向かうことです。

「生み出そう」、CREATEには、待つのではなく、私たち自身が変化をつくる姿勢があります。

そしてLASTING IMPACTは、年度を越えて、次の世代に残る価値です。  
活動とインパクトは同じではありません。活動は実施した時点で終わることがあります。  
しかしインパクトは、人の考え方、クラブの雰囲気、地域の関係性の中に残ります。

ババロラ会長は、自分自身の中に持続可能な変化を生み出しているだろうか、と問いかけています。  
これは静かですが厳しい問いです。奉仕に慣れすぎではないか。会員増強を人数だけの話にしていないか。親睦を内輪の安心だけにしていないか。

RIの最新メッセージでは、2030年までの会員基盤拡大にも触れていますが、同時に「大切なのは人」と明確に語られています。

入会候補者は、数字の前に、私たちの姿、例会の空気、奉仕に向かう表情を見えています。  
だからこそ、この一年は「何をしたか」だけでなく、「何が残ったか」を確認する一年にしたいと思います。

## 2026-27年度第2760地区方針

続いて、第2760國府谷俊盛ガバナーの地区方針です。

「元気で、なかよく、楽しく、そして高潔に」。

親しみやすい言葉ですが、決して軽い言葉ではありません。

「元気で」とは、声が大きいことではなく、職業人として自らの仕事をしっかり全うすることです。品質、約束、説明責任、誠実さを守ることが、地域の元気を支えます。

「なかよく」とは、馴れ合いではなく、互いの違いを認め、クラブの内外に温かな関係をつくることです。

「楽しく」とは、義務感だけでなく、参加する喜びを奉仕の燃料にすることです。

そして「高潔に」。ここがロータリーらしさの核心です。四つのテストを土台に、行動に品格を添える。新たな視点からの挑戦とは、伝統を壊すことではなく、大切な核を守りながら、今の地域、今の会員、今の子どもたちに届く形へ整えることです。

この方針を、会議資料の中だけに置いておくのではなく、例会の空気、新会員の迎え方、奉仕活動の設計、日々の職業生活の中に置きたいと思います。クラブを叱る言葉ではなく、クラブを整える言葉として受け止めたいと思います。

### 日本の子どもたちのために

ここからは「日本の子どもたちのために」という柱に入ります。スライドには、子どもの権利条約の四つの原則が示されています。差別の禁止、子どもの最善の利益、生きる、育つ権利、子どもの意見の尊重です。大人がよかれと思うことが、必ずしも子どもの最善とは限りません。支援する側の満足が、支援される側の安心と一致するとも限りません。

だからこそ、子どもの声、尊厳、権利を中心に置く必要があります。子どもは未来の担い手である前に、今を生きている一人の人間です。その尊厳を守ることが、ロータリーの子ども支援の出発点になります。

そしてこの考え方は、四つのテストにも響き合います。真実か、公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるか。子ども支援を考えるときにも、この四つはそのまま私たちの物差しになります。

### 小中学生自殺者の推移

このスライドは、小中高生の自殺者数の推移です。令和6年の小中高生の自殺者数は合計529人。資料では過去最多と示されています。

内訳は、小学生15人、中学生163人、高校生351人です。

この数字のあとに、少し間を置きたいと思います。529という数字の一つひとつに、名前があり、家族があり、学校があり、地域がありました。ロータリーだけでこの問題を解決できるとは言えません。しかし、できることはあります。家庭と学校以外にも安心して関われる場所を増やすこと。相談できる大人を一人でも増やすこと。学校、行政、専門機関、NPOをつなぐこと。子どもの変化に気づく目を、地域の大人が持つことです。

原因を決めつけるより先に、子どもたちが安心して声を出せる地域であるかを問うこと。その一つひとつが、派手ではなくても、命に近い奉仕です。

## G7各国の自殺死亡率

次のスライドは、G7各国の自殺死亡率です。人口10万人あたりで見ると、日本は16.5と示され、G7の中でも高い水準にあります。

女性では日本が10.8と、他のG7諸国より高い数字です。この比較は、どの国が良い、悪いという順位表ではありません。私たちの社会を映す鏡です。

経済的に豊かであることと、人の心が安心して居ることは同じではありません。便利な社会であることと、孤立しない社会であることも同じではありません。医療や相談機関につなぐことは重要です。同時に、日常の中で声をかける、変化に気づく、相談先を知っている、偏見を持たない。そうした地域の基礎体力を高めるところに、ロータリーの役割があります。

世界を見て、足元の一人に戻る。国際組織であり、地域に根を張る私たちだからこそできる視点です。

### 児童虐待相談対応件数の推移

三つ目のグラフは、児童虐待相談対応件数の推移です。令和6年度の相談対応件数は223,691件と示されています。

この数字を見て、単純に誰かを責める話にははいけません。相談件数の増加には、社会が問題を見つけやすくなった面もあります。一方で、相談を必要とする子どもや家庭がこれだけ存在していることは、重く受け止めなければなりません。

背景には、家庭の孤立、貧困、子育ての不安、保護者の疲弊、地域のつながりの弱まりがあります。

子どもを守ることは、保護者を支えることでもあります。追い詰められた家庭を孤立させたまま、子どもだけを救うことはできません。

ロータリーの強みは、行政、学校、NPO、医療、企業をつなぐ力です。相手を弱者として固定するのではなく、その人がもう一度力を取り戻す関係をつくること。継続できる関係を残すこと。それが持続可能なインパクトです。

### 青少年、職業人の育成と平和構築

続いて、青少年、職業人の育成と平和構築です。このスライドでは、各委員会のさらなる発展、七つの重点分野以外の研究にも対応する新たな留学生補助制度、そして第30回RI日本青少年交換研究会・愛知会議の開催が示されています。

予定は2027年6月12日、13日です。

ロータリーには、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、RYLA、財団奨学金、米山記念奨学、平和フェローシップなど、若い世代を育てる入口があります。

名前は別々でも、根は一つです。若い人が自分の可能性を信じ、違いを理解し、職業を通じて社会に貢献し、平和をつくる人材へ育つことです。

便覧では、地区予算の大きな部分が青少年育成など人材育成に向けられていることも示されています。これは費用配分ではなく、未来への意思表示です。平和は遠い会議場だけで生まれるものではありません。

例会で語る職業経験、学生を招く一回の機会、海外から来た若者を地域で迎える一つの家庭、その積み重ねが未来への投資になります。

成果が見えるまで時間はかかります。しかし10年後、20年後に地域を支える人材が育つなら、それは最も確かなインパクトの一つです。

## ロータリー・ドネーション・フェスタ（RDF）

次は、ロータリー・ドネーション・フェスタ、RDFです。ここには二つの方向性があります。

一つはポリオ根絶です。LAST MILE、最後の一步を完遂し、ワクチン接種だけでなく監視活動、サーベイランスを続けることが重要です。最新のRI会長メッセージでも、ポリオ根絶という世界との約束は今も変わらないと語られています。

もう一つは、疲弊する日本の子どもたちへの支援です。寄付というと金額が先に立ちますが、ドネーションの本質は競争ではありません。

目的に名乗りを上げることです。便覧には、学校設立のための募金に、年老いた農夫が自分の二ドルを差し出した話が紹介されています。金額の大小ではなく、目的のために自分にできる精一杯を差し出す。その精神が原点です。

年次基金150ドル、ポリオプラス基金30ドル、恒久基金20ドル。数字は目安、目的は羅針盤です。

同時に、寄付をお願いする側には説明責任があります。何に使われ、どのような価値を生み、どのように未来へつながるのか。そこを丁寧に共有するとき、寄付は義務ではなく、奉仕になります。

## クラブ奉仕・危機管理

次に、クラブ奉仕と危機管理です。

クラブを愛し、会員同士の親睦を深め、対外的にもオープンで、ホスピタリティの高い雰囲気をつくること。これはすべての活動の土台です。

どれほど立派な奉仕活動でも、クラブの中に温かさがなければ会員は続きません。外から来た人が歓迎されていると感じがなければ、新しい仲間も増えません。開かれた親睦は、会員増強の土台でもあります。

一方で、危機管理も欠かせません。法令遵守、COMPLIANCEは、ロータリアンにとって最低基準です。特に青少年に関わる活動では、安全管理、個人情報、ハラスメント、会計、SNS、移動時の事故など、注意すべき点が多くあります。

危機管理は、活動を止めるためのブレーキではありません。安心して活動を広げ、参加者とクラブの信頼を守るための土台です。

信頼は一日にして生まれませんが、一つの不注意で失われることがあります。だからこそ、高潔さを日々の運営に落とし込みたいと思います。

## 第2760地区メンバー数

ここで、地区のメンバー数を確認します。第2760地区は84クラブ、4,648名です。東尾張分区は12クラブ、430名で、地区内では6番目の規模です。

この数字は、競争の順位表ではありません。地域の仲間の広がりを示す地図です。大きい分区には大きい役割があり、小さい分区には顔の見える機動力があります。

大切なのは、数字の大小ではなく、そこにいる一人ひとりが、クラブに居場所と出番を持てるかどうかです。

新しい会員、若い会員、異なる職業や背景を持つ会員が、「ここにいてよい」と感じられるかどうか。会員増強もまた、数を追う前に、迎え入れる空気を整えることから始まります。

## 行事予定

最後に、主な行事予定です。ガバナー公式訪問は、クールビズ対応でお願いいたします。

地区大会は2026年11月14日（土）、エスパシオナゴヤキャッスル。

IMは2027年3月5日（金）、名鉄小牧ホテル。

RDFは2027年5月8日（土）、9日（日）、エディオン久屋広場、エンゼル広場。

そしてロータリー国際大会は2027年6月26日（土）から30日（水）まで、スペインのバルセロナで開催され、登録は2026年9月開始予定です。

行事は、予定表に載っている日付であると同時に、クラブが互いにつながり、学び、奉仕の力を持ち寄る機会です。

本日の話を一言でまとめるなら、持続可能なインパクトは、自分自身の変化から始まる、ということです。元気で、なかよく、楽しく、そして高潔に。子どもたちを守り、若い世代を育て、寄付を通じて世界と地域を支え、温かく開かれたクラブをつくる。

最後に各クラブで一つだけ問いをお持ち帰りください。

「今年、私たちのクラブは、何を一つ残すのか」。

小さな行動でも、続けばクラブの文化になります。クラブの文化になれば、年度を越えて残ります。その問いが行動に変わったとき、次の一年が始まります。ありがとうございました。

## 幹事報告

幹事 風岡 明憲君

まずは、第2760地区よりガバナー補佐岡田雅隆君を始め地区分区役員の皆様におかれましては、公務ご多用の中ご来会を賜り心より厚く御礼申し上げます。

また、岡田ガバナー補佐より大変貴重なお話を頂きました。我々春日井ロータリークラブ一同、改めてRIの方向性や第2760地区の活動方針を確認でき、本年度のロータリー活動の糧としてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

それでは、2026年8月21日 第2675回 8月第二例会における幹事報告をさせていただきます。

次回例会の予告です。来週8月28日（金）12時30分よりホテルプラザ勝川にて開催します。内容は、岡本寛之君より会員卓話、及び会員増強フォーラムの続きを行います。

なお、本日例会終了後に第2回クラブ協議会を開催しますので、対象者の方はご出席をお願いいたします。会場は、隣の部屋さくらの間となります。13時45分より開会しますのでよろしくお願いいたします。

以上、幹事報告とさせていただきます。ありがとうございました。

出席報告

|         |        |            |
|---------|--------|------------|
| 会員 61名  | 出席 45名 | 出席率 73.80% |
| 先週の修正出席 |        | 84.70%     |

ニコボックス報告

○瀬国際ロータリ第2760地区東尾張分  
区岡田雅隆君、地区スタッフ長谷川裕  
一君、分区幹事 谷定貴之君ご来訪頂  
きありがとうございます。川瀬先輩  
PHF+3おめでとうございます。

○岡田ガバナー補佐を始め、地区・分  
区役員の皆様をお迎えするよろこびで

○岡田ガバナー補佐を迎えるよろこび  
で

○ポールハリスフェロー+3のバッジ  
をいただける喜びで

○岡田ガバナー補佐をお迎えできるよ  
ろこびで

○ガバナー補佐訪問ありがとうございます。

○明日甲子園決勝見に行きます

○いつも有難うございます

○ガバナー補佐をお迎えして

○ガバナー補佐をお迎えできる喜びで

○ガバナー補佐お世話様です

○よろしくお願いします

○ガバナー補佐ご苦労様です

○卓話

伊藤 正樹君

梅木 孝君

小柳出和文君

加藤 宗生君

北澤 伸君

木野瀬将大君

実原 秀泉君

清水 勲君

鈴木 克幸君

谷口 美香君

成瀬 浩康君

野浪 正毅君

長谷川久幸君

保坂 昌宏君

三上 努君

水谷 高広君

森部 清孝君

実原 秀泉君

中川 健君

風岡 明憲君

加藤久仁明君

川瀬 治通君

速水 敬志君

古屋 義夫君

青山 博徳君

大橋 省吾君

大原 泰昭君

北 健司君

近藤 太門君

藤川 誠二君

松尾 隆徳君

和田 了司君

岡本 寛之君

加藤也寸則君

桑原 大道君

下田 育雄君

筒井 康広君

野間 峰彦君

松尾 隆徳君

三村 栄二君

○ご協力ありがとうございます。

ニコボックス委員会一同



会長挨拶



米山奨学生 奨学金授与



ポール・ハリス・フェロー バッチ授与 川瀬治通君



ポール・ハリス・フェロー バッチ授与  
川瀬治通君 あいさつ



委員会報告 出席・ニコボックス委員会



委員会報告 職業奉仕委員会



委員会報告 クラブ奉仕委員会



委員会報告 幹事 風岡明憲君



卓話 ガバナー補佐 岡田雅隆君



幹事報告



ガバナー補佐訪問 会長幹事懇談会



クラブ協議会 1



クラブ協議会 2